

# 施策評価シート（平成25年度実績評価）

## ◎ 施策の基本情報

総合計画 中期 プラン	政策No.	3-5	政策名	芸術文化の振興	政策の 目指す姿	地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しんでいます	施策 主管課	文化財課	施策主管 課長名	千葉 達哉
	施策No.	3	施策名	文化財の保護と活用	施策の 目指す姿	文化財を適切に保護・活用しています	関係課名			
	<b>現状と課題</b> ・現在市内には国・県・市の指定を受けた有形・無形文化財が278件あります。また、1,000ヵ所を超える遺跡が存在しており、開発に際しては発掘調査を行い、適切な保存に努めています。 ・少子高齢化や人口減少が進行している中、地域の活性化や個性あふれる地域が求められており、その地域の絆を結びつける重要な資産として文化財や伝統的な文化への期待や価値が高まっています。									

## 1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

(1)文化財の保護

- ・無形民俗文化財「湯本田植踊」と無形文化財「花巻傘制作技術」をそれぞれ市指定文化財として指定した。
- ・重要文化財建造物3棟、国指定天然記念物2件について、地元保存会に委託等を行い、周辺環境管理等を実施した。
- ・市内建造物調査2棟、重要文化財建造物耐震予備診断調査3棟の調査及び一般文化財調査を4件行い、状況の把握に努めた。
- ・市指定文化財補助金交付要綱の一部を改正し、天然記念物の保護・育成環境等の保全に関する経費を補助対象に加えた。
- ・市内に所在する遺跡を保護するために、遺跡内での開発行為の把握及び届出事務処理・状況調査を行い、破壊が免れない遺跡を記録保存するために、発掘調査を実施した。
- ・総合文化財センターに収蔵する埋蔵文化財資料の整理・台帳登録を実施した。

(2)文化財の公開と活用

- ・早池峰自然観察会・文化財セミナー・埋蔵文化財を活用した体験学習を実施した。
- ・地域の要望により、発掘調査を行った地域において、調査成果報告会を開催した。
- ・文化財説明板・標柱の設置及び遺跡標柱を設置した。
- ・市博物館において、テーマ展及び特別展、宮沢賢治没後80年記念展覧会を開催した。
- ・地域の歴史を学ぶために、博物館資料を活用した講座や体験学習、学校と連携した事業を開催した。

## 2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
この1年間に博物館等の市内の文化財関連施設を訪れたり、文化財に関する講座・セミナー等に参加した市民の割合	文化財に対する興味・関心や理解をするため、市内にある文化財関連施設を訪れたり、文化財に関する講座等に参加しているか、その状況を示す指標	出典：まちづくり市民アンケート【新規】 問：あなたは、この1年間に市内の文化財関連施設（花巻市博物館 花巻歴史民俗資料館 石鳥谷歴史民俗資料館 東和ふるさと歴史資料館 石鳥谷農業伝承館 南部たばこ史料館 大迫文化保存伝承館 総合文化財センター）を訪れたり、文化財に関する体験学習、セミナー、講話等に参加したことがありますか？ (1)ある (2)ない (1)と答えた市民の割合	%	目標値				26.0	29.0	32.0
				実績値	—	26.9	23.8			
				目標値						
				実績値						

## 3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
	・前年度比較ができる4館（市博物館・石鳥谷歴史民俗資料館・東和ふるさと歴史資料館・総合文化財センター）の総入館者は、前年度比較122%となっている。しかし、市博物館を除く3館は総じて減少傾向にあり、博物館についても、企画展期間における入館者数が全体の81%を占めていることを踏まえると、入館者は市内だけでなく、展示会のテーマにより市外・県外の来館者も多数いることが想定される。また市民を主対象とした講座・体験学習等のイベントの状況を見ると前年度比較で60%程度の受講者数であり、総じて市民が文化施設等へ足を運ぶ機会の減少が見える。

#### 4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	貢献度の判断理由
	事業内容(実績)			
1-1	文化財保護活用事業	文化財課	B	市民に最も知って欲しい文化財及び保護すべき文化財の選定の基礎となっている。
	市内の神社の構造調査、古文書や民俗芸能等の調査を実施し、調査報告書を刊行した。(6件調査)。文化財指定調査を行い、「湯本田植踊」「花巻傘制作技術」を新指定。(計2件)			
1-2	文化財保護活用事業	文化財課	B	最も知って欲しい文化財及び保護すべき文化財を市民に周知するために有効である。
	市内指定文化財説明板・標柱の設置及び修繕を25か所で実施した。			
1-3	文化財保護活用事業	文化財課	C	保護すべき文化財として指定されたものを適正に維持管理するために必要がある。(委託事業)
	指定文化財建造物「旧小原家住宅」「伊藤家住宅」「熊谷家」「毘沙門堂」及び指定天然記念物「花輪堤花菖蒲群落」「カズクリ自生地」の維持管理・状況調査を通年行った。(6件:通年)			
1-4	文化財保護活用事業	文化財課	C	修復や保全は、文化財を保護するために不可欠な要素であるが、補助件数が1件であった。
	市民の要望により、市指定補助金交付要綱を一部改正し、天然記念物の補助対象として上で大迫地区諏訪神社の千歳桜の保全に関する事業費を一部補助した。(1件)			
2-1	埋蔵文化財保護活用事業	文化財課	B	破壊される遺跡の状況把握及び記録保存は埋蔵文化財を保護するための基礎事業となっている。
	遺跡内での開発に係る指導・届出処理153件のうち、破壊が免れない遺跡を発掘調査により8遺跡(個人住宅関係6遺跡、大規模開発2遺跡)を記録保存した。			
2-2	埋蔵文化財保護活用事業	文化財課	B	地域の財産として周知活用してもらうために地元保存会での史跡の環境整備は必要である。
	市内所在する史跡の環境整備を地元保存会に委託し実施した。(3か所)			
2-3	埋蔵文化財保護活用事業		C	直接、土器や石器などの実物資料に触れる機会として有効であるが、体験学習は229名であった。
	総合文化財センターに所蔵する埋蔵文化財資料の整理を行い、その資料を活用し、小学生を対象にした体験学習を随時実施した。(参加者229名)			
3	展示活動事業	博物館	A	市民の文化への理解度や興味関心を高めるためには有効である。
	日本を代表する浮世絵師や人気作家の展覧会など、テーマ展・特別展・展覧会の開催(6回、企画展入館者数38,545人)			
4	教育普及活動事業	博物館	B	文化への学習意欲の向上や興味関心を高めるために、収蔵資料を使用した講座・体験学習は有効である。
	展覧会の理解を高める講座や出前講座・体験学習に加え、実演会やサイン会を実施した。(講座受講者1672人、体験学習受講者311人)			

#### 5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

- 子ども達に体験学習を通じて文化財に触れる機会を提供してきたが、利用者が限定されている傾向が見られることから、資料を持参するなど、学習機会の手段について検討する必要がある。
- 来館者アンケートにより、昭和時代の花巻の再現や国内外の幅広い視野に立った展覧会の開催希望があったことから、市民の要望に応じた特別展・企画展・テーマ展を開催するために計画を再検討する必要がある。

(新たに取り組むべき事業はないか)

- 文化財を計画的に保護するために、現状調査を行う必要がある。
- 文化財を活用し、市民の文化財や文化財施設への関心を引き出すための方法や手段を検討する必要がある。

#### 6 施策の総合的な評価

(課題)

- 定期的な修繕が必要な文化財(建造物等)について、修繕の時期や方法を踏まえた検討が必要である。
- 埋蔵文化財の必要性を周知する必要がある。
- 市民を対象とした講座や体験学習等の事業を実施する場合、周知方法等を検討する必要がある。
- 講座・体験学習において、受講者ニーズを検討する必要がある。

(今後の方向性)

- 文化財の状況を見ながら、専門家の意見を参考にして、保護計画を検討する。
- 市民を対象とした事業(講座・体験学習等)について、ニーズの掘り起こし方法や参加しやすい環境づくりについて検討する。